

# VMware Cloud Director 10.1.3 リリース ノート

VMware Cloud Director 10.1.3 | 2021 年 3 月 4 日 | ビルド 17672887 (インストールされているビルド 17672851)

このリリースノートの追加事項や更新事項を確認してください。

## このドキュメントの内容

- [新機能](#)
- [システム要件とインストール](#)
- [ドキュメント](#)
- [VMware Cloud Director 10.1.x の以前のリリース](#)
- [解決した問題](#)
- [既知の問題](#)

## 新機能

- **VMware Cloud Director 仮想アプライアンスの機能強化:** VMware Cloud Director アプライアンスのデプロイ中に、プライマリラージまたはスタンバイラージのデプロイ サイズを選択すると、8 個の vCPU がデプロイされるようになりました (4 個の vCPU から増加)。また、Cloud Director セル アプリケーションを使用した場合、4 個の vCPU がデプロイされるようになりました (2 個の vCPU から増加)。
- VMware Cloud Director 10.1.3 リリースでは、バグの修正と、VMware Cloud Director アプライアンスの基本 OS と VMware Cloud Director のオープンソース コンポーネントのアップデートが提供されています。

## システム要件とインストール

システム要件とインストール手順の詳細については、「[VMware Cloud Director 10.1 リリース ノート](#)」を参照してください。

### VMware Cloud Director アプライアンスのデプロイ

VMware Cloud Director アプライアンスのデプロイ後に、vami\_firstboot ファイルが自動的に削除され

ないことがあります。これが原因で、アプライアンスは次に電源入れ直しまたは再起動したときに再初期化されます。この問題を回避するには、デプロイ後にサーバグループ内の各アプライアンスで次の手順を実行します。

1.VMware Cloud Director アプライアンスにファイル /opt/vmware/etc/vami/flags/vami\_firstboot があるかどうかを確認します。

2.ファイルがある場合は、次のコマンドを実行して削除します。

```
rm /opt/vmware/etc/vami/flags/vami_firstboot
```

## ドキュメント

製品の完全なドキュメント セットを参照するには、「[VMware Cloud Director のドキュメント](#)」にアクセスしてください。

## VMware Cloud Director 10.1.x の以前のリリース

[VMware Cloud Director 10.1.2 リリース ノート](#)

[VMware Cloud Director 10.1.1 リリース ノート](#)

[VMware Cloud Director 10.1 リリース ノート](#)

## 解決した問題

- **vApp 間で仮想マシンをコピーするときに、仮想マシンの固定 IP アドレスを指定できない**  
テナント ポータルで、vApp 間の仮想マシンのコピーを行って、NIC を設定すると、仮想マシンの固定 IP アドレスを入力できなくなります。
- **[分散ファイアウォール] 画面に分散ファイアウォール ルールの完全なリストが表示されない**  
VMware Cloud Director で 1,000 を超える分散ファイアウォール ルールを設定すると、HTML5 ユーザー インターフェイスの [分散ファイアウォール] 画面に分散ファイアウォール ルールの完全なリストが表示されません。
- **VMware Cloud Director で仮想マシンの一覧表示に時間がかかる**  
VMware Cloud Director API または VMware Cloud Director テナント ポータルを使用して仮想マシンのリストを取得すると、オブジェクトの一覧表示に時間がかかります。これは、VMware Cloud Director セルとデータベースとの間の遅延が原因で発生します。
- **VMware Cloud Director で組織 VDC の一覧表示に時間がかかる**

VMware Cloud Director API または VMware Cloud Director Service Provider Admin Portal を使用して組織 VDC のリストを取得すると、オブジェクトの一覧表示に時間がかかります。これは、VMware Cloud Director セルとデータベースとの間の遅延が原因で発生します。

- **VMware Cloud Director で仮想マシンの仮想ハードウェアバージョンの表示に時間がかかる**

VMware Cloud Director API または VMware Cloud Director テナント ポータルを使用して仮想マシンの仮想ハードウェアバージョンを取得すると、バージョンの表示に時間がかかります。これは、VMware Cloud Director セルとデータベースとの間の遅延が原因で発生します。

- **ゲストのカスタマイズが有効な Windows 2019 仮想マシンをパワーオンすると、エラーメッセージが表示されて失敗する**

Windows 2019 仮想マシンでゲストのカスタマイズを有効にしていると、仮想マシンのパワーオンに失敗し、エラーメッセージが表示されます。

不明な OS の IMC ゲスト タイプを決定できません: windows2019srv\_64Guest

これは、接続された vCenter Server インスタンスによってバックアップされているプロバイダ VDC のサポート対象オペレーティングシステムのリストと、ゲストのカスタマイズのサポート対象オペレーティングシステムのリストが一致しないために発生します。

- **仮想マシンの展開に失敗し、「IP アドレスを追加で割り当てることができません」というエラーメッセージが表示される**

仮想マシンを展開し、IP プールから固定 IP アドレスを割り当てるときに操作が失敗し、次のエラーメッセージが表示されます。

IP アドレスを追加で割り当てることができません。

これは、指定した IP アドレス プールで、すでに存在しない仮想マシンに割り当てられていた IP アドレスのレコードを VMware Cloud Director が保持しており、それらのアドレスを新しい仮想マシンに割り当てることができないために発生します。

- **既存の vApp に vCenter Server 仮想マシンをインポートすると、仮想マシンが別のデータストアに再配置される**

複数のデータストアが構成されている vCenter Server のストレージ ポッドに仮想マシンが配置されている場合、VMware Cloud Director の既存の vApp に仮想マシンをインポートする際に、Storage DRS はストレージ ポッド内の別のデータストアの方が適していると判断し、仮想マシンを別のデータストアに再配置することがあります。

- **Service Provider Admin Portal に、既存の LDAP サーバ構成を削除または無効にするオプションがない**

Service Provider Admin Portal には、既存の LDAP サーバ構成を削除または無効にするオプションがありません。

- **HTML5 ユーザー インターフェイスを使用して外部ネットワークを追加すると、Edge Gateway から既存の外部ネットワーク情報が削除される**  
[Edge Gateway の編集] ウィザードの [外部ネットワーク] ページで、最初に構成された外部ネットワークのページよりもインデックス番号が小さいページから新しい外部ネットワークを選択すると、既存の外部ネットワークが Edge Gateway から削除されます。
- **仮想マシンの [ハード ディスクの編集] ダイアログに既存の仮想ディスクが表示されない**  
ハードウェア バージョンが異なる複数の仮想マシンを含む vApp で、仮想マシン A、仮想マシン B の順に [ハード ディスクの編集] ダイアログを開き、仮想マシン A で同じダイアログを開くと、ウィザードに既存の仮想ハード ディスクが表示されません。ウィザードで既存の仮想ディスクが表示される前に [保存] をクリックすると、構成済みのすべての仮想ディスクが仮想マシンから削除されます。
- **ゲストのカスタマイズが有効な 64 ビット Windows 仮想マシンで、パワーオンして再カスタマイズを適用する操作が失敗する**  
ゲストのカスタマイズを有効にして 64 ビットの Windows 仮想マシンを展開すると、仮想マシンのパワーオンと再カスタマイズの適用が失敗し、次のエラー メッセージが表示されます。  
コマンドが終了コード -1073741701 で完了しました
- **ゲストのカスタマイズが有効な 64 ビット Windows 仮想マシンで、パワーオンして再カスタマイズを適用する操作が失敗する**  
ゲストのカスタマイズが有効な 64 ビット Windows 仮想マシンに対して、パワーオンして再カスタマイズを適用する操作を開始すると、操作が失敗し、エラー メッセージが表示されます。  
コマンドが終了コード -1073741701 で完了しました
- **仮想マシン コンソールのタブを閉じた後に仮想マシンの Web コンソールを再起動すると失敗する**  
テナント ポータルで仮想マシンの Web コンソールを起動し、コンソールがロードされる前に Web コンソール タブを閉じてから、同じコンソールを再起動すると、失敗します。
- **予約プール割り当てモデルを使用する組織 VDC で、テンプレートから vApp をインスタンス化すると、展開された仮想マシンでメモリ予約とメモリ制限に対する適切な構成が保持されない**  
予約プール以外の割り当てモデルを使用する VDC にバックアップされたカタログに vApp テンプレートが保存されている場合、予約プール割り当てモデルを使用する組織 VDC で、テンプレートを指定して vApp をインスタンス化すると、仮想マシンではメモリ予約とメモリ制限に適切な構成が展開されません。
- **仮想マシンの展開解除直後に vApp から同じ仮想マシンを削除すると、エラー メッセージが表示されて失敗する**

VMware Cloud Director API を使用して、仮想マシンの展開解除直後に vApp から同じ仮想マシンを削除する際に操作が失敗し、エラーメッセージが表示されます。

オブジェクトの削除に失敗しました。

- **NIC の IP モードを [固定 - IP プール] に設定できない**

複数のサブネットで作成される外部ネットワークで、サブネットの 1 つが完全に使用されているときに、他のサブネットで作成された仮想マシンの NIC を [固定 - IP プール] に構成すると、VMware Cloud Director は構成の適用に失敗し、IP モードを DHCP に変更します。

- **HTML5 ユーザー インターフェイスで、インポートされた LDAP ユーザーに対してユーザー パスワードを変更するオプションが有効になっている**

VMware Cloud Director の HTML5 ユーザー インターフェイスで、インポートされた LDAP ユーザーが上部のナビゲーションバーに移動してユーザー名をクリックすると、ドロップダウンメニューに [パスワードを変更] オプションが表示されます。このオプションは、VMware Cloud Director のローカルユーザーにのみ表示される必要があります。

- **柔軟性のある Flex 組織 VDC 内の仮想マシンをパワーオンすると、エラーメッセージと共に失敗する**

柔軟性のある Flex 組織 VDC で、システム管理者がリソースプールの CPU 予約を「ゼロ」以外の値に設定した場合、組織 VDC 内の仮想マシンをパワーオンすると、以下のエラーメッセージと共に失敗します。

操作は、引数が無効であるため実行できませんでした。指定パラメータが正しくありません: val[0]

- **仮想マシンでゲスト OS のカスタマイズを無効にした後、同じ仮想マシンのハードディスク サイズを更新しようとすると、エラーメッセージが表示されて失敗する**

最初に仮想マシンでゲスト OS のカスタマイズを有効にして組織のドメインとドメインプロパティをオーバーライドし、その後同じ仮想マシンでゲスト OS のカスタマイズを無効にすると、仮想マシンのハードディスクサイズの更新が失敗してエラーメッセージが表示されます。エラー。ドメイン参加が無効化されている場合、「DomainName」を提供しないでください。

## 既知の問題

- **New:** 予約プール仮想データセンターを Flex 組織仮想データセンターに変換すると、仮想マシンが非標準になる

予約プール割り当てモデルを使用する組織仮想データセンターで、一部の仮想マシンに CPU とメモリのゼロ以外の予約、CPU とメモリの無制限でない構成、またはその両方がある場合、Flex 組織仮想データセンターに変換した後でこれらの仮想マシンは非標準になります。仮想マシンを再び標準状態にしようと試みると、システムは予約と制限に関して誤ったポリシーを適用して、CPU およびメモリの予約をゼロに設定し、制限を [制限なし] に設定します。

## 回避策:

1. システム管理者が、正しい構成の仮想マシンサイジングポリシーを作成する必要があります。
2. システム管理者が、変換後の Flex 組織仮想データセンターに新しい仮想マシンサイジングポリシーを発行する必要があります。
3. テナントは、VMware Cloud Director API または VMware Cloud Director テナントポータルを使用して、Flex 組織 VDC 内の既存の仮想マシンに仮想マシンサイジングポリシーを割り当てることができます。

- **初回ログイン時に root パスワードを期限切れにする設定を有効にすると、VMware Cloud Director アプライアンスのデプロイに失敗する**

**[初回ログイン時に root パスワードを期限切れにする]** 設定が有効なアプライアンスをデプロイすると、デプロイは失敗し、/opt/vmware/var/log/firstboot ログファイルに次のエラーが記録されます。

```
[ERROR] postgresauth script failed to execute.
```

回避策: **[初回ログイン時に root パスワードを期限切れにする]** 設定を無効にし、8 文字以上で、1 つ以上の大文字、1 つ以上の小文字、1 つ以上の数字、1 つ以上の特殊文字を含む初期 root パスワードを指定します。

- **vApp ユーザーがテンプレートから vApp を作成する際に、「操作は拒否されました」というメッセージが表示されることがある**

割り当てられているユーザーロールが vApp ユーザーである場合、テンプレートから vApp を作成する際に、vApp 内の仮想マシンの仮想マシンサイジングポリシーをカスタマイズすると、「操作は拒否されました」というメッセージが表示されます。この問題は、vApp ユーザーロールでは vApp をテンプレートからインスタンス化できますが、このロールには仮想マシンのメモリ、CPU、またはハードディスクをカスタマイズできる権限が含まれていないために発生します。サイジングポリシーを変更することで、仮想マシンのメモリまたは CPU を変更できます。

回避策: なし。

- **NFS のダウンタイムによって VMware Cloud Director アプライアンスのクラスタ機能が誤動作することがある**

NFS 共有に空きがない、または読み取り専用になっているなどの理由で NFS が使用できない場合、アプライアンスのクラスタ機能が誤動作する可能性があります。NFS が停止している、またはアクセスできない場合、HTML5 ユーザーインターフェイスは応答しません。影響を受ける可能性のあるその他の機能として、障害が発生したプライマリセルのフェンス、スイッチオーバー、スタンバイセルの昇格などがあります。NFS 共有ストレージを正しく設定する方法に

については、「[VMware Cloud Director アプライアンスに対する転送サーバストレージの準備](#)」を参照してください。

回避策:

- NFS の状態を read-only にならないように修正します。
- NFS 共有に空きがない場合は、クリーンアップします。
- **マルチサイト環境で vCenter Server および NSX のリソースを追加しているときにエンドポイントを信頼した場合、統合証明書ストレージ領域にエンドポイントが追加されない**  
マルチサイト環境で HTML5 ユーザー インターフェイスを使用しているときに、vCloud Director 10.0 サイトにログインするか、vCenter Server インスタンスを vCloud Director 10.0 サイトに登録しようとしても、VMware Cloud Director がエンドポイントを統合証明書ストレージ領域に追加しません。

回避策:

- 証明書を VMware Cloud Director 10.1 サイトにインポートするには、API を使用します。
- 証明書管理機能をトリガするには、VMware Cloud Director 10.1 サイトの SP Admin Portal に移動し、サービスの **[編集]** ダイアログに移動して、**[保存]** をクリックします。
- **vCenter Server バージョン 6.5 以前で名前付きディスクを暗号化すると、エラーが発生して失敗する**  
vCenter Server インスタンス バージョン 6.5 以前の場合、新規または既存の名前付きディスクを暗号化が有効になっているポリシーに関連付けると、操作が失敗し、「このバージョンの vCenter Server では、名前付きディスクの暗号化はサポートされていません。」というエラーが表示されます。

回避策: なし。

- **VMware Cloud Director バージョン 10.0 と 10.1 のマルチサイト混在環境で vCenter Server および NSX の接続に対する証明書の信頼が、ローカルサイトのオブジェクトに対してのみ機能する**  
VMware Cloud Director バージョン 10.0 と 10.1 を含むマルチサイト環境が互いに関連付けられている場合、いずれかのサイトにログインすると、他方のサイトで vCenter Server または NSX Manager インスタンスを登録できません。

回避策: vCenter Server または NSX Manager インスタンスを登録するサイトにログインし、登録プロセスを開始します。

- **VMware Cloud Director テナント ポータルで、[アプリケーション] タブの仮想マシンの詳細なフィルタリング オプションからデータセンター別に仮想マシンをフィルタリングできない**  
VMware Cloud Director テナント ポータルで、上部のナビゲーション バーの [アプリケーション] タブの下にある仮想マシンに移動し、[詳細フィルタ] オプションからデータセンター別に仮想

マシンをフィルタリングすると、以下のようなエラーが表示されます：不正な要求: 不明なプロパティ名 vdcName です。

回避策：上部のナビゲーションバーで、**[データセンター]** を選択し、内部の仮想マシンを表示するデータセンターを選択します。

- **NEW: 拡張機能サービスで VMware Cloud Director からの RabbitMQ メッセージが処理されない**

RabbitMQ に依存する拡張機能サービスでは、ヘッダーに新しい一時的な名前があるため、メッセージからヘッダー `notification.type` を取得できません。VMware Cloud Director 10.1.0 のヘッダー名は `notification.operationType` です。

回避策：拡張機能サービスで VMware Cloud Director からの RabbitMQ メッセージを処理しており、`notification.type` ヘッダーを使用している場合は、変更する必要があります。

`notification.type` ヘッダーを使用できない場合、拡張機能サービスはヘッダー `notification.operationType` から値を取得する必要があります。この変更は、バージョン 10.1.0 の場合にのみ必要です。

- **VMware Cloud Director Service Provider Admin Portal で、組織仮想データセンターの削除がエラーで失敗する**

VMware Cloud Director Service Provider Admin Portal で、組織 VDC に Edge ゲートウェイを追加し、ゲートウェイでの VMware Cloud Director 分散ルーティングを有効にしている場合、組織 VDC の削除を試行すると、「組織 VDC ネットワークを削除できません」というエラーメッセージが表示されて失敗します。

回避策：

1. API を使用して、組織 VDC に関連付けられている組織 VDC ネットワークと Edge ゲートウェイを削除します。
2. API を使用して、組織 VDC を削除します。

- **レガシー API ログイン エンドポイントへのプロバイダ アクセスを無効にすると、vCloud Usage Meter や vCloud Availability for VMware Cloud Director など、システム管理者のログインを利用するすべての API 統合が機能を停止する**

vCloud Director 10.0 以降では、サービス プロバイダおよびテナントから VMware Cloud Director へのアクセスに個別の VMware Cloud Director OpenAPI ログイン エンドポイントを使用できます。サービス プロバイダからレガシー `/api/sessions` エンドポイントへのアクセスが無効になっている場合は、vCloud Usage Meter や vCloud Availability for VMware Cloud Director など、VMware Cloud Director と統合された製品が機能を停止します。これらの製品を引き続き動作させるには、パッチを適用する必要があります。

この問題は、システム管理者にのみ影響します。テナント ログインは影響を受けません。

回避策: セル管理ツールを使用して、サービス プロバイダからレガシー /api/sessions エンドポイントへのアクセスを再度有効にします。

- **VDC の予約保証値を変更すると、再起動しても、既存の仮想マシンが適切に更新されない**  
システムのデフォルト ポリシーが設定された Flex 組織 VDC があり、この VDC 上のパワーオン状態の仮想マシンにデフォルトのサイジング ポリシーが設定されている場合に、VDC のリソース保証値を大きくすると、既存の仮想マシンのリソース予約は更新されず、非準拠とマークされることもありません。この問題は、レガシー VDC 割り当てモデルを Flex 割り当てモデルに変換したことで既存の仮想マシンが Flex 組織 VDC の新しいデフォルト ポリシーに準拠しなくなった場合にも発生します。

回避策:

1. 仮想マシン識別子を見つけるには、VMware Cloud Director テナント ポータルで仮想マシンの [詳細] 画面に移動します。URL に識別子が表示されます。  
`https://Cloud_Director_IP_address_or_host_name/tenant/.../vm-Identifier/general`
2. VMware Cloud Director ユーザー インターフェイスに非準拠の仮想マシンを表示するには、VMware Cloud Director API を使用して、仮想マシンに対する明示的なコンプライアンス チェックを実行します。  
POST: `https://VCD_IP_Address/api/vApp/vm-Identifier/action/checkComputePolicyCompliance`
3. ポリシーを再適用してリソース予約を再構成するには、VMware Cloud Director テナント ポータルで、非準拠仮想マシンに対して **[仮想マシンを準拠させる]** をクリックします。

- **VMware Cloud Director に、専用 vCenter Server インスタンス内の実行中の仮想マシン数と仮想マシンの総数、および CPU とメモリの統計情報が正しく表示されない**

専用 vCenter Server がバージョン 6.0 U3i 以前、6.5U2 以前、または 6.7U1 以前の場合は、VMware Cloud Director に、vCenter Server インスタンス内の実行中の仮想マシン数、仮想マシンの総数、および CPU とメモリの統計情報に関する情報が正しく表示されません。vSphere 環境に仮想マシンが置かれている場合でも、テナント ポータルの専用 vCenter Server のタイトルと、サービス プロバイダ管理ポータルの専用 vCenter Server の情報に、実行中の仮想マシンと仮想マシンの総数が両方ともゼロと表示されます。

回避策: vCenter Server インスタンスをバージョン 6.0 U3j、6.5U3、6.7U2 以降にアップグレードします。

- **パワーオン状態にある仮想マシンのコンピューティング ポリシーを変更すると失敗することがある**

パワーオン状態にある仮想マシンのコンピューティング ポリシーを変更する際に、仮想マシングループまたは論理仮想マシン グループが含まれるプロバイダ VDC コンピューティング ポリ

シーに新しいコンピューティングポリシーが関連付けられていると、エラーが発生します。次のエラーメッセージが表示されます。基盤システムのエラー:

```
com.vmware.vim.binding.vim.fault.VmHostAffinityRuleViolation。
```

回避策: 仮想マシンをパワーオフしてから、操作をやり直してください。

- **Firefox で VMware Cloud Director Service Provider Admin Portal を使用している場合に、テナント ネットワーク画面をロードできない**

Firefox で VMware Cloud Director Service Provider Admin Portal を使用すると、組織仮想データセンターの [ファイアウォールの管理] 画面などのテナント ネットワーク画面の読み込みに失敗することがあります。この問題は、Firefox ブラウザでサードパーティの Cookie をブロックするように設定していると発生します。

回避策: Firefox ブラウザで、サードパーティの Cookie を許可するよう設定します。

- **VMware Cloud Director 10.1 では、vRealize Orchestrator ワークフローの入力パラメータのリストのみがサポートされる**

VMware Cloud Director 10.1 では、以下の vRealize Orchestrator ワークフローの入力パラメータがサポートされます。

- boolean
- sdkObject
- secureString
- number
- mimeAttachment
- properties
- date
- composite
- regex
- encryptedString
- array

回避策: なし

- **VMware vSphere Storage APIs Array Integration (VAAI) 対応 NFS アレイ上、または vSphere Virtual Volumes (VVols) 上に作成されている高速プロビジョニングされた仮想マシンを統合できない**

ネイティブスナップショットが使用されている場合、高速プロビジョニングされた仮想マシンのインプレイス統合はサポートされません。VAAI 対応データストアおよび VVols では、ネイティブスナップショットが常に使用されます。高速プロビジョニングされた仮想マシンがこれらのいずれかのストレージ コンテナにデプロイされている場合、その仮想マシンを統合することはできません。

回避策: "VAAI 対応 NFS または VVols を使用する組織仮想データセンターで高速プロビジョニングを有効にしてはいけません。"VAAI または VVol のデータストアにスナップショットを持つ仮想マシンを統合するには、その仮想マシンを別のストレージ コンテナに再配置します。